



# 白沢電気株式会社

家電部品の製造・組立技術を磨き創業80年、社員とその家族の幸せを追求

代表取締役会長 白澤 正弘 氏(写真右)  
代表取締役社長 池田 守 氏(写真左)



「白沢電気株式会社」は1944年の創業から80年を迎え、創立記念日の2023年11月10日には社長が交代した。戦後の激動期を乗り越えて家電部品の開発・製造で業績を伸ばし、加工・組立に特化することで事業を継続してきた歴史と今後の展開について伺った。

## 電気コンロの製造・販売から出発 家電部品の製造請負・加工へと転身

二代目社長で現会長・白澤正弘氏の父・芳男氏が創業した同社は、チタンコンデンサ（蓄電・放電部品）の製造からスタートした。チタンコンデンサは軍需品として納めていたが、創業から1年後に終戦。技術畑だった芳男氏は、ものづくりに生きようと民生品の製造へ移行した。

白澤会長は「当時は、熱盤を益子焼、金属台を鋳造で作ってもらい、それを電気コンロに仕上げるなど地場産業を活かした電気製品を製造していました。東京・池袋駅前の闇市に持って行くと、飛ぶように売れたそうです。時期を同じくして、地元の大平町（現・栃木市大平町）にあった軍需品の製造工場が業種転換し、冷蔵庫やエアコンを作るようになりました。そこで当社もその会社の下請けとしてスイッチ、ハーネス、リモコンなど家電部品の開発・設計・製造を請け負うことで、順調に業績を伸ばしていきました」と歴史を振り返る。

転機となったのは1985年の「プラザ合意」だった。円安ドル高から一気に円高が進み、輸出で稼いでいた自動車や電機メーカーは、こぞって海外に生産拠点を移した。特に電気部品は自前主義から、世界中で手取り早く調達できるマスプロ製品へと転換が進んだ。

「プラザ合意がきっかけとなり、国内の電機メーカーは空洞化し、その下請け企業も凋落の一途をたどりま

した。当社も受託生産を続けることができなくなり、開発・設計部門を解散しました。その後、メーカーから提供される部材での組立加工に徹し、事業をスリム化することで会社を存続させることができました」と白澤会長は語る。

## 社員の幸せこそが会社の繁栄・継続の礎

「これまでも決して順風満帆ではなかった」と白澤会長は続ける。「1991年にはバブル経済が崩壊し、1998年には一人娘が19歳で亡くなって、後継者もいなくなりました。バブル崩壊後の電機業界は本当に大変で、会社には借金もないし廃業しようかとも考えたんです。そこで思い止まったのは、企業の社会的責任からでした。社員やその家族のこと、取引先のことを思うと、踏ん切りがつかなかった。励ましてくださる方も多くいる一方で、理不尽な目にも随分あいましたが、社会的責任を考えると困難を乗り越えて前に進むしかない。低位安定経営ですが、事業を継続できた要因のひとつです」。

創業者の社訓「和、創意工夫、実践」に加え、白澤会長は同社の経営理念にも言及した。「私たちの環境はいばらの道ですが、汗して頑張り、成果という果実

**白沢電気株式会社**

我々の環境はいばらの道ですが、頑張って成果という実をつけます。  
その実をみんなで割ちあって happy になる事が願いです。

白沢の「白」の漢字から派生したりんごマーク。  
果実=利益をハッピーマークとして同社のロゴに使用している

をつけ、その果実を社員と社会で分かち合って、みんながHAPPYになれることをめざしています。まずは社員とその家族の幸せ、それが会社の繁栄・継続の礎であり、得られた利益はステークホルダーに還元するところに、当社の存在意義があります」と語る。

さらに「当社は決算賞与です。損益計算書はガラス張りで、幹部には月次報告会で全てオープンにしています。成長と分配（賃上げ）が企業に好循環をもたらすと言われていますが、私は成長の前に分配があると思います。人は自分や家族のために仕事を頑張るんです。頑張った分だけ分配が増えると、幸福度が上がります。分配する原資を生み出すために社員は生産性や改善について考え、そのことで会社も発展できる。これが私たち全社員の『幸せ物語』です」と、人を軸に据えた経営を続ける。

## 人の質が品質や信頼につながる

品質保証の理念として「品質は人質（じんしつ）なり」と同社は方針を掲げている。電気製品や産業用機器などの組立をメインに、少量多品種で量産化・自動化が難しい特殊な加工やハンドメイド加工を社内外で請け負う。長年の生産活動を通じて培ってきた技術がニッチな小規模加工を可能にしている。

白澤会長は社員との昼食会を定期的に行っているが、社員と直接会話する機会をもっと増やしたいと言う。「私たちは中間業者者ですから、得意先から信頼され、期待されることで仕事を取るしかない。そのための社員教育の基盤が『整理・整頓・清掃・節約・作法』です。この5Sをおろそかにしてはいけません。まず仕事の前に整理・整頓・清掃を徹底。節約はエネルギーなどの消費を抑制し、地球の環境保全に貢献します。作法は社会人としての作法。5Sが励行されて



生産工場は区分けされ、少量多品種に対応。産業用照明器具、基板加工、自動車部品、制御盤の組立などを担う

いるかは、見た目で見分けるので、第一印象は非常に大切だと思います。その他に、社内で定めた遵守事項を周知することで人間関係が円滑化し、ひいては品質や生産性が向上して、得意先や地域社会から信頼・期待される企業になります」と話す。



別棟の部品組立工場。受注管理システムを導入し業務効率化を図る

## 社長交代とこれからの展望

三代目を継いだ池田守氏は電機メーカーの技術者として経験を積んだ後、約2年前より同社で取締役工場長として勤務する傍らで経営を学び、この度、代表取締役社長に就任した。

同社の社員は約8割が女性で、子育てや親の介護など家庭状況に合わせて業務を分担する勤務体系を整備している。

池田新社長は「社員がワクワクするような会社を目指しています。作業中に出たアイデアを具現化し、組立に使う治具などにひと工夫を加えて作業が楽になる装置をつくったり、共用スペースなどには遊び心を取り入れたり、働きやすい環境の整備に努めます。毎日、仕事に来たくなるような会社が理想ですが、時には難しい状況もあると思います。それでも、最終的には問題を解決し、社員がワクワク楽しく仕事ができる職場をつくってまいります」と、未来に向けて同社の歴史を紡ぐ。

### 会社概要：白沢電気株式会社

代表者/池田 守  
所在地/栃木市沼和田町45-39  
資本金/1,000万円  
従業員/62名  
URL/ <https://www.shirasawadenki.com/>

